

● 使用材料・使用器具

使用材料

キクスイ 15kg/缶
 プライマースーパーE
 グラナダSi 20kg/缶
 塗料用シンナー

使用器具

計量 秤
 基層塗り リシガン又はコテ
 模様塗り リシガン又はコテ
 模様付け 角ゴテ+押えローラー

● 標準施工仕様

(23℃、50%RH)

工程	使用材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考
					工程内	工程間	
下塗り	キクスイ プライマースーパーE	15kg 無希釈	0.1~0.19	1		3以上	エアレススプレー等
基層塗り	グラナダSi	20kg	0.8~1.0	1	-	6以上	リシガン 口径:4~6mm 吹圧:0.5~0.6MPa コテ
	清水	吹付け塗り 1~2kg コテ塗り 0~0.5kg					
模様塗り	グラナダSi	20kg	1.6~2.0	1	-		リシガン 口径:6~8mm 吹圧:0.4~0.6MPa コテ
	清水	0~0.5kg					
パターン 付け	材料配り均し後、角ゴテをランダムに押し当て、引き離して材料を引き起こした後、塗シんをつけた押えローラーで凸部を押えて意匠付けをする。						追っかけ 模様付け (L:210~240mm) +押えローラー
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。						直後又は 乾燥後
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。						24以上

● 標準施工要領

1. 下塗り

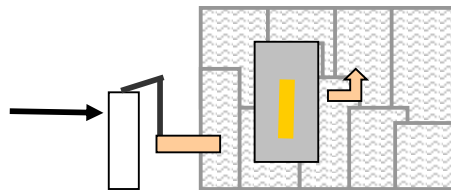
- ①下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ②下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。
- ③基層塗りは、下地がスケないようにリシガンで吹き付けるか、又はコテなどを使用し塗り付ける。

2. 模様塗り

- ①出隅、入隅、開口部廻、大面積連続壁で意匠目地を必要とする場合は25mm幅の装飾養生をする。特に妻壁は各階などで、また長スパン壁は適度なスパンで装飾養生を取るようになる。
- ②主材は定められた模様になるように指定された清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、水の計量は秤などを使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ③模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を塗り付ける。

3. パターン付け

- ①パターン付けは、模様塗りと並行して追っかけで行う。まず、コテL:210-240mm程度の角ゴテをランダムに押し当て、引き離し材料を引き起こした後、塗シんをつけた押えローラーで意匠付けする。
- ②パターンの大きさ、押し当て間隔やランダムさなどにより仕上がり感が異なるため、見本板などであらかじめ設計担当者に確認を行っておくようにする。
- ③表面皮張りが早い場合、直射日光など避けて施工する。
- ④模様塗り・パターン付けは上部から下部に向け施工して行く。
- ⑤角印を押すように角ゴテを押し当て、引き離し形作りした後、凸部を押えて意匠付けする。
- ⑥角ゴテは、コテの先端の2辺を特に強調してコテ跡を付けていくようにする。
- ⑦パターンは、壁全体のバランスも考慮して整える。



4. 養生撤去他

- ①養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。なお、水切部などにバリの出ている場合は、カッターナイフで取るようにする。
- ②施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
- ③足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。